

# 全国産業観光 フォーラム



### 産業観光とは…

「歴史的・文化的価値のある産業文化財（古い機械器具、工場遺構などのいわゆる産業遺産）、生産現場（工場、工務等）及び産業製品を観光資源とし、それらを通じてものづくりの心に触れるとともに、人的交流を促進する観光活動をいう。」

（（社）日本観光協会 産業観光推進会議報告書「産業観光が地域に未来を拓く」より）

## 会 | 津 | 若 | 松 | 2 | 0 | 0 | 7

～伝統と先端技術の交錯するまち～

平成19年10月26日(金)・27日(土)

26日 本大会・分科会・交流会 27日 エクスカーション

会場 会津若松ワシントンホテル 会津若松市白虎町201

**主催** 全国産業観光フォーラムin会津若松2007実行委員会  
 全国産業観光推進協議会、(社)日本観光協会、会津若松市、会津若松商工会議所、  
 (株)まちづくり会津、(財)会津若松市観光公社、会津若松観光物産協会、  
 東日本旅客鉄道(株)会津若松駅、会津漆器協同組合、会津若松酒造協同組合、  
 会津本郷焼事業協同組合、会津喜多方商工会議所  
 公立大学法人会津大学、福島県商工会連合会（順不同）

**共催** 福島県・福島県商工会議所連合会

**協賛** 国土交通省・経済産業省（予定）

日本商工会議所・福島民報社・福島民友新聞社・エフエム会津



お問い合わせ 会津若松商工会議所

〒965-0816 福島県会津若松市南千石町6番5号 TEL.0242-27-1212(代) FAX.0242-27-1207  
 (URL) <http://www.aizu-cci.or.jp> (E-mail) [info@aizu-cci.or.jp](mailto:info@aizu-cci.or.jp)



## ご挨拶

「全国産業観光フォーラム in 会津若松 2007」の開催にあたり、ご挨拶を申し上げます。

会津若松市は永い歴史と伝統を背景とした全国でも屈指の観光都市であります。名城鶴ヶ城、白虎隊自刃の地・飯盛山を始めとし、多種多様な、そして数多くの観光資源に恵まれており、これらの名所旧跡や会津の歴史は全国の皆様に愛され、多数の観光客の方々にご来訪いただいております。

今回のフォーラム開催にあたりましては、これら全国の皆様方がよくご存知の観光地会津とは違った側面をご覧頂きたいと考えております。

近年、『産業観光』という新たな観光の概念が大いに注目を浴びております。各地に根付いた産業、ものづくりの現場や産業遺構などを通じ、地域の歴史や人々のものづくりの心に触れるという新たな視点からの観光の姿であります。

会津の永い歴史が育ててきたのは観光資源だけではなく、中世から連綿と続く会津のものづくり精神により数多くの産業が生まれ、そして発展して参りました。

私ども実行委員会では会津の素晴らしい産業を是非皆様にご覧いただきたく、存じます。

会津の産業発展の歴史をご理解頂くことにより、一層会津の歴史を興味深くご覧いただけるものと確信しております。是非会津に触れていただき、『会津の産業』という新たな観光の一面をご堪能いただきたいと思います。フォーラムへ多数ご参加下さいます様お願い致しましてご挨拶とさせていただきます。

## 会津の産業発展と産業観光…

### 1. 中世における地場産業

会津における多数の地場伝統産業の中で著名なものとして会津清酒、会津漆器、会津本郷焼などが挙げられる。(会津漆器・会津本郷焼はともに国指定伝統的工芸品) これらの地場産業振興の礎を築いたのが会津藩主蒲生氏郷である。豊臣秀吉の家臣であった氏郷は会津に入部するとまちづくりや産業の振興に力を入れた。故郷近江から招かれた職人達が漆器や清酒製造に取り組み、地場産業として定着し、若松城天守閣の屋根瓦を葺くために瓦職人が招かれたのが会津本郷焼の始まりであると言われている。

また、漆器産業が発展することにより、漆の実から採れる蠟を利用した会津絵ろうそくも産業として産声を上げることになる。木綿栽培が会津に伝えられたのも氏郷の時代であると伝えられている。更に清酒の醸造とともに同じ麹を利用した発酵食品である味噌や醤油の製造も発達してゆく。

その後会津藩家老田中玄宰が酒や漆器の品質向上に取り組み、現在全国から名声を得ている会津清酒・会津漆器はこの時点で確固たる地位を築くことになる。

全国的に見ても古くから続く伝統的産業は近代の重工業産業にその地位を取って代わられるケースも多いが、会津地域においては依然として地域の主要産業としての地位を守っている。

### 2. 近世のエネルギー資源開発

明治以降の近代に入ると国内でも重工業が急速な発展を見せ始める。明治政府は『殖産興業』を掲げ、国内産業振興に力を入れた。会津においても近代化の流れは顕著であった。

安積地方(現在の郡山市)の広大な土地を開拓するため猪苗代湖の水利用が計画され、「安積疏水」が完成。これにより安積地方に豊富な水資源が供給され、農業のみならず工業の発展にも貢献することとなる。

また、これら会津の豊かな水は電気事業からも注目を浴びた。かつては送電技術の未発達により遠隔地へ送電することができず電気利用地近辺での火力発電が主であったが、その技術発達により山間地の水資源を利用して発電し、遠距離の都市部へ送電することが可能となったため、猪苗代水系には世界でも屈指の発電量を誇る水力発電所が次々と建設され、ここから全国の水力電源開発が本格的に開始されることになり、日本の産業発展に大きく貢献するのである。

### 3. 現代の先端産業

近代から高度成長期にかけて、水力発電や工業製品製造において活躍していた会津地域の豊富な水資源は、IT化が急速に進展する現代社会において、新たな産業界から注目を集めることになる。現在コンピュータや携帯電話を始めとする情報機器に欠かすことのできない半導体製造において、シリコンウエハー洗浄に大量の水が使用される。ミクロン単位での精度が求められるシリコンウエハー、その洗浄には不純物混入の無い清浄な、そして豊富な水が必須である。

会津の豊富な、そして清冽な水資源は半導体業界から評価され、現在多数の半導体関連工場が多数進出している。そしてこれら情報関連機器工場の集積に合わせ、地元経済界はこれからの情報化社会に対応した人材を輩出すべく、コンピュータ関連大学の設立を目指し、平成5年「会津大学」が開学する。ハードウェア学科、ソフトウェア学科の2学部を持ち、世界中から優秀な教授陣を集めた会津大学は情報化分野に優秀な人材を輩出し、またその中からは多数のベンチャー企業も生まれ、今後の成長が大いに期待されている。

### 4. 会津における産業観光 ～伝統と先端技術の交錯するまち～

会津においてはこれらの伝統産業・近代産業、そして先端産業が共存している。昔ながらの酒造業、味噌・醤油醸造業、漆器製造職人達、水力発電所、半導体工場、これらが全て現役の産業として稼働している。中世から連綿と技術を受け継いできた伝統産業と最先端のIT技術を担う半導体産業が混在し、会津の産業界を支えている。ここに会津のものづくり精神が如実に現れており、様々な産業が交錯する背景に、会津のそして会津に住む人々の生活と歴史を見て取ることができる。正に会津は『伝統と先端技術の交錯するまち』であると言える。



## 【1日目】10月26日（金）〔フォーラム登録料3,000円〕

**開会式** 13:30～14:20  
 【会場:2階双鶴】  
 \*主催者あいさつ ・(社)日本観光協会・全国産業観光推進協議会・福島県・会津若松市・会津若松商工会議所  
 \*来賓あいさつ ・国土交通省・経済産業省(予定)  
 \*産業観光まちづくり大賞表彰式

**基調対談** 14:30～15:20  
 【会場:2階双鶴】  
 テーマ 『地域文化を支える産業観光』  
 講師 赤坂 憲雄 氏(福島県立博物館長・東北芸術工科大学大学院長)  
 講師 高橋 富雄 氏(東北大学名誉教授・前福島県立博物館長)

**分科会** 15:30～16:50  
**第1分科会** (2階:双鶴) **テーマ 『広域連携による産業観光』**  
 ◆コーディネーター  
 丁野 朗 氏((財)社会経済生産性本部余暇創研研究主幹)  
 ◆パネラー  
 里見 庫男 氏(いわきヘリテージツーリズム協議会長)  
 佐藤 健次 氏(郡山市観光協会湖南支部長)  
 宮森 泰弘 氏((財)会津若松市観光公社理事長)  
 ◆アドバイザー  
 高橋 信 氏(東北観光推進機構副会長)

**第2分科会** (2階:飛翔東) **テーマ 『産業観光と多面的観光スタイル』**  
 ◆コーディネーター  
 清水 慎一 氏((株)ジェイティービー常務取締役事業創造本部長)  
 ◆パネラー  
 新城猪之吉 氏(会津若松酒造協同組合 理事長)  
 桑田 彰 氏(福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター所長)  
 渋川 恵男 氏((株)まちづくり会津 代表取締役)  
 ◆アドバイザー  
 高橋 富雄 氏(東北大学名誉教授・前福島県立博物館長)

**第3分科会** (2階:飛翔西) **テーマ 『産業観光による教育旅行の推進』**  
 ◆コーディネーター  
 前原 和子 氏((社)新居浜市観光協会アドバイザー)  
 ◆パネラー  
 河上 一雄 氏((財)日本修学旅行協会理事長)  
 宮崎 公順 氏(富山商工会議所理事・事務局長)  
 真部 正美 氏(会津若松商工会議所青年部会長)  
 ◆アドバイザー  
 須田 寛 氏(全国産業観光推進協議会 副会長)

**報告会** 17:00～17:50  
 (2階:双鶴) **分科会報告及び質疑応答**  
 ◆総評 須田 寛 氏(全国産業観光推進協議会 副会長)

**交流会** 18:00～19:20  
 (2階:飛翔) **会津伝統郷土料理 「こづゆ」「棒たら」「鯨の山椒漬」など**  
 【交流会参加費6,000円】

会津若松市内  
 ライトアップツアー  
 19:30～20:30  
 【参加無料】



鶴ヶ城・市内景観ライトアップ等





# エクスカージョン 会津産業観光視察見学コース


## 【2日目】10月27日(土)

※天候や交通事情等により、コースは変更になる場合がございますのでご了承下さい。  
 ※定員によりご希望のコースにご参加いただけない場合、他のコースに変更させていただく場合がございます。

〔参加料3,000円 定員 各コース45名〕

### 1コース テーマ「地域資源の多目的活用と近代遺構」


8:00  
 ワシントンホテル——会津山塩企業組合(大塩温泉から製塩)——喜多方三津谷煉瓦蔵と登り窯(煉瓦蔵集落)(煉瓦焼登り十連釜)——会津桐工芸館

(昼食)(喜多方ラーメン)  ..蔵の町自由散策..一ノ戸鉄橋(石造鉄橋)——13:50 会津若松駅——

会津ブランドものづくりフェア——17:00 会津若松駅(※コース中、フラッシュメモリ製造大手「SpansionJapan(株)」工場の車窓見学予定)

### 2コース テーマ「ものづくり産業とまち並み」

8:00  
 ワシントンホテル——会津葵(鶴ヶ城北出丸大通り)(全国町並み保存連盟・会津復古会)(都市景観100選)——会津酒造歴史館(景観建造物・酒造蔵)——会津慶山焼(県指定伝統的工芸品)

——会津漆器(伝統工芸・会津漆器)——七日町街並み(大正ロマン通り・七日町界隈ものづくり散策)——(昼食)(渋川問屋・郷土料理)  ——13:50 会津若松駅——

会津ブランドものづくりフェア——17:00 会津若松駅

### 3コース テーマ「伝統工芸と地域資源の活用」


8:00  
 ワシントンホテル——会津漆器(伝統工芸・会津漆器)——会津本郷焼(伝統工芸・会津本郷焼)——東北電力柳津西山地熱発電所(単機日本最大地熱発電)——三島町・生活工芸館(伝統工芸・奥会津編組み細工)

(昼食:ふるさと交流館・会津地鶏料理)  ——13:50 会津若松駅——会津ブランドものづくりフェア

——17:00 会津若松駅(※コース中、半導体製造大手「富士通(株)会津若松工場」の車窓見学予定)

### 4コース テーマ「水と電力と先端技術」

8:00  
 ワシントンホテル——会津大学(日本初コンピュータ単科大学)——戸ノ口堰洞穴(会津若松への灌漑用水路原点)——東京電力猪苗代第二発電所(煉瓦造発電所)

十六橋水門(猪苗代湖)——(昼食)日本そば博覧会(灌漑取水口橋桁)  ——(磐梯町駅)——13:50 会津若松駅——

会津ブランドものづくりフェア——17:00 会津若松駅



#### 会津ブランドものづくりフェア

会津方部の「ものづくり」が一堂に会する産業展示会です。最先端産業、会津漆器・会津本郷焼・奥会津編み組細工などの国指定伝統的工芸品を堪能することができます。会場では体験コーナー、物販コーナーも設けられ、会津の素晴らしい産業の数々を体感することができます。

※会津ブランドものづくりフェア会場から30分間隔で会津若松駅にシャトルバスが運行予定です。(会場から会津若松駅まで所要時間約20分)

### オプションコース 「国内最大出力の風力発電所」

〔参加料無料 定員 45名〕



会津若松駅(14:00)——布引山高原:風力発電所(国内最大出力の風力発電所)——郡山駅(17:00)

〔布引山風力発電所〕



# 会津産業観光視察先紹介

※天候や交通事情により、コースは変更になる場合がございますのでご了承ください。  
 ※定員によりご希望のコースにご参加いただけない場合、他のコースに変更させていただく場合がございます。

## 1コース テーマ「地域資源の多目的活用と近代遺構」

### 一ノ戸鉄橋



明治43年に完成した、喜多方市山都の磐越西線一ノ戸川に架かる高さ17メートル、長さ445メートルの鉄橋です。磐越西線を疾走するSL撮影には絶好のポイント。石造りの橋脚が特徴です。SLがこの橋を通過するときに響く音は平成9年「うつくしま音の三十景」に認定されました。



### 会津山塩企業組合

弘仁3年(812年)諸国巡歴の途中、僧空海が大塩の地を訪れ、老婆の家に泊まり、塩が乏しいのを知って摩訶菩提を焚き、17日目に岩から塩の湯が湧き出たと伝えられています。会津は、海の塩の購入が容易でない為、会津藩の時代から大塩で採掘が行われていました。明治32年には天皇陛下へ献上された記録も残っています。その複製版と言える商品が、2007年7月に会津山塩企業組合より発売開始されました。



### 会津桐工芸館

会津桐は厳しい寒さと湿潤な気候、豊かな土壌により年輪の締まった美しい目の桐材に成長します。会津地方の農家が女の子が生まれると桐を植え、その子が嫁ぐときに成長した桐の木で筆筒をつくり花嫁道具として持たせてやるという風習がありました。会津桐は材質が堅く、粘りや光沢があり、火にも水にも強く、やさしさや気品のある木質をもっています。会津桐工芸館では様々な桐工芸品を製造・販売しております。製作工程の見学もできます。

会津桐は厳しい寒さと湿潤な気候、豊かな土壌により年輪の締まった美しい目の桐材に成長します。会津地方の農家が女の子が生まれると桐を植え、その子が嫁ぐときに成長した桐の木で筆筒をつくり花嫁道具として持たせてやるという風習がありました。会津桐は材質が堅く、粘りや光沢があり、火にも水にも強く、やさしさや気品のある木質をもっています。会津桐工芸館では様々な桐工芸品を製造・販売しております。製作工程の見学もできます。



### 喜多方ラーメン

喜多方ラーメンの歴史は大正末期から昭和初期にさかのぼります。当時、市内にはラーメン店というものはありませんでしたが、中国から渡ってきた一青年がチャルメラを吹きながらラーメンを売り歩いたのが70年以上の歴史を持つ喜多方ラーメンの元祖と言われています。喜多方ラーメンは、基本的に醤油味がベースになっていますが、風味は店それぞれです。「平打ち熟成多加水麺」と呼ばれる縮れたコシのある太麺が特徴です。喜多方ラーメンがおいしいのは、喜多方は良質の水に恵まれており、その水を使って麺が作られ、高品質の醤油や味噌が作られ、豚骨や魚介類まじり地元でとれた野菜などにより絶妙な味を持つからです。

### 蔵のまち 喜多方

喜多方は古くからの地場産業である味噌・醤油醸造で使用されていた蔵だけでなく数蔵や蔵、味噌蔵など様々な用途の蔵が多数ありましたが、産業構造の移り変わりとともに使用されなくなった蔵は取り壊されてゆきました。そうした中で喜多方市の写真家が後世に残すべく蔵の写真を撮り続け、そして写真展を開催しました。この写真展が好評を博し、さらにはテレビで喜多方市が紹介され、全国に「蔵のまち」として知られることになりました。



### 喜多方三津谷煉瓦蔵

喜多方市郊外の三津谷集落に、エキゾチックな雰囲気のある煉瓦蔵の蔵があります。わずか5戸の家にそれぞれ煉瓦蔵があるという貴重な例です。敷地内まで見学が可能な若菜家の蔵では、農作蔵、座敷蔵、味噌蔵など、明治後期から昭和初期に建築された蔵を観賞することができます。これらの煉瓦蔵は若菜家所有の山の良質な赤土を、集落内に出来た煉瓦工場に提供した縁により計画的に建造されたといわれています。



### 煉瓦焼 十連登り窯

喜多方市の三津谷にある登り窯は煉瓦造り十連式の構造となっており、間口4.5メートル、奥行き18メートルで一度に9000個の煉瓦を焼くことができます。明治23年に樋口市郎氏が建造し、当所は7段の窯でしたが2代目の喜木氏によって十連式となりました。磐越西線のトンネル、加納鉱山の坑道、周辺の煉瓦蔵や風呂の材料となる煉瓦を焼いていました。

## 2コース テーマ「ものづくり産業とまち並み」



### 会津葵 (会津復古会)

会津復古会は昭和46年に発足しました。酒、漆器、菓子、料理、織物、桐箱、民芸細工など、会津の長い歴史と文化を守る伝統産業の名門、老舗の仲間組織の協同組合です。「ならぬことはならませぬ」「土産商才」「真善美」の商人哲学をひたすら追求実践しております。



### 鶴ヶ城北出丸大通り

国土交通省では、平成3年都市景観大賞「都市景観100選」を実施。都市空間の構成並びに意匠について総合的な工夫、配慮及びその結果作られている都市空間のデザインに着目し、総体としての都市環境が優れた地区並びに高い水準の都市空間デザインが行われている地区を表彰しました。北出丸から中心市街地方面に伸びる鶴ヶ城北出丸大通りは平成11年に「都市景観百選」に選定されました。



### 会津酒造歴史館 (泉宮酒造蔵)

鶴ヶ城から歩いてわずか、西郷頼母邸跡、白露庭などに囲まれた「会津酒造歴史館」は、会津若松市の歴史的景観建造物に指定された一番蔵を歴史館として公開。「焼酎資料館」「會津名宝館」「小原庄助蔵」など見所が多く、酒造りの工程を勉強しながら、お土産のお買物や利き酒を楽しめます。この井戸は、古くより日本酒の母といわれる「宮水」にきわめて近い水質を示すことから、「泉宮」の名称と呼ばれてきました。



### 会津慶山焼

慶山焼は今からおよそ410年前の文禄元年(1592年)、会津藩主・蒲生氏郷が黒川城(のちの鶴ヶ城)の屋根瓦をつくるため、慶山の地に窯場を築き、瓦を焼かせたのが始まりとされています。そして時代の流れと共に、釜、鉢などの製作へと移り変わり、茶道具が盛んになるとお城の御用窯として窯場をつくらせました。現在は日常に使う器へと発展してきました。昔ながらのつくり方は変わらず、ケヤキの木を燃やした灰から発色させる灰釉(はいゆう)が特徴です。



### 会津漆器

会津の漆器づくりは、宝徳元年(1449年)に始まり、天正18年(1590年)蒲生氏郷公の積極的な保護奨励を契機に、塗りのまちができるほど発展しました。天保3年創業の当店は、独自の技法を受け継ぐ職人たちによって、堅固で美しくしかも使いやすい会津漆器を生み出してきました。



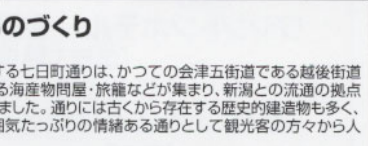
### 渋川問屋

明治創業の海産物問屋の店舗や屋敷、商品蔵などを利用した郷土料理店です。伝来の料理方法で、「棒たし」や「こづゆ」などの海の幸の保存食を少しずつ楽しめる「祭り御膳」が人気です。奥は、大正ロマン調の宿になっています。



### 七日町通りとものづくり

七日町通りは伝統産業が数多く存在し、会津のものづくりの歴史を体感することができます。会津清酒の蔵元、会津線ろろく製造販売元、会津木組工場などが昔ながらの工程で製造を続け、桂林寺通りや大町通りまで足を伸ばせば起き上がり小法師などの工芸品、酒蔵、味噌醸造元などが立ち並びかつの城下町に思いを馳せることができます。



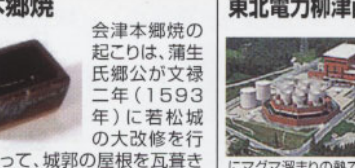
七日町通りは伝統産業が数多く存在し、会津のものづくりの歴史を体感することができます。会津清酒の蔵元、会津線ろろく製造販売元、会津木組工場などが昔ながらの工程で製造を続け、桂林寺通りや大町通りまで足を伸ばせば起き上がり小法師などの工芸品、酒蔵、味噌醸造元などが立ち並びかつの城下町に思いを馳せることができます。

## 3コース テーマ「伝統工芸と地域資源の活用」



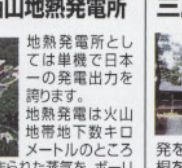
### 漆器工房鈴武

会津漆器は蒲生氏郷公の奨励以降も、保科正之公他歴代藩主が技術革新に取り組み、海外にも輸出され隆盛を迎えました。漆器が英語でJapanといわれるようになったのは、海外での評価が高かったことが由来とされています。当工房は、全国唯一の木製漆器専門工房を見学できる施設で、職人さんの技を製造現場の工程に沿ってご覧いただけます。



### 会津本郷焼

会津本郷焼の起りには、蒲生氏郷公が文禄二年(1593年)に若松城の大改修を行うに当たって、城郭の屋根を瓦葺きとするため播磨国(兵庫)から瓦工を招き、黒瓦を製造したのが始まりとされています。平成5年、この伝承が認められ、会津本郷焼は、陶器、磁器とも伝統的工芸品産地として通商産業省(現在の経済産業省)より指定を受けています。



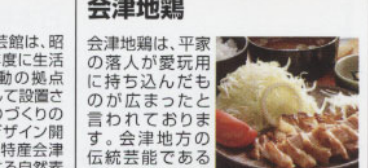
### 東北電力柳津西山地熱発電所

地熱発電所としては単機で日本一の発電能力を誇ります。地熱発電は火山地帯地下数キロメートルのところにマグマ溜まりの熱で作られた蒸気を、ボーリングによって地上に取り出し、その蒸気を回してエネルギーによってタービン・発電機を回して発電するものです。日本には18地点に地熱発電所がありますが、新潟を含めた東北の7県に7ヶ所の地熱発電所が立地しています。その建物は自然環境に調和するような形状や色彩などに配慮したものとされています。



### 三島町生活工芸館

生活工芸館は、昭和61年度に生活工芸運動の拠点施設として設置され、ものづくりの指導、デザイン開発を行っています。館内では特産産物桐を使った木工や野山に自生する自然素材を用いた伝統的技法でつくられる編み組が体験できます。また、専門技術取得コース、ものづくりツアー、ものづくり教室も開催しています。館内外にもものづくりの普及を図っています。毎年6月には、「つくる手から使う手へ」をテーマにナラ林や芝生の広場で実演即売を行う「工人まつり」を開催し、県内外から多くの観光客で賑わっています。



### 会津地鶏

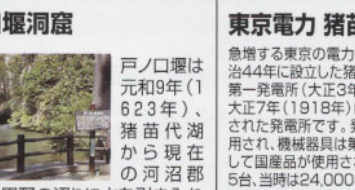
会津地鶏は、平家の落人が愛玩用に持ち込んだものが広まったと言われております。会津地方の伝統芸能である「会津彼岸獅子」の飾り羽にもこの会津地鶏の尾羽が使用されています。400年以上前から生息していると思われていますが、一時は絶滅寸前となりました。昭和62年に再発見され福島県養鶏試験場で原種が増殖・維持され、現在は会津地方で飼育されております。

## 4コース テーマ「水と電力と先端技術」



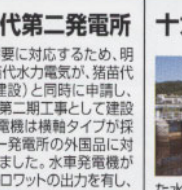
### 会津大学・産学イノベーションセンター

会津大学は、平成5年に開学した日本初のコンピュータ専門の大学です。なかでも、産学イノベーションセンター(平成7年にオープンしたマルチメディアセンターを平成14年にリニューアル)では、地域や企業に開かれた産学連携の総合窓口として技術相談や経営相談、各種セミナー等を開催し、産業の支援を行っています。



### 戸ノ口堰洞窟

戸ノ口堰は元和9年(1623年)に、猪苗代湖から現在河東町八田野の辺りに水を引き入れるために工事を開始したのが始まりといわれています。戸ノ口堰洞窟は天保6年(1835年)、藩主松平容敬の命により戸ノ口堰の大改修が行われた際に採掘されたもので、白虎隊士中二番隊はこの戸ノ口堰洞窟を通り、戸ノ口原から飯盛山に向かいました。



### 東京電力 猪苗代第二発電所

急増する東京の電力需要に対応するため、明治44年に設立した猪苗代水力電気が、猪苗代第一発電所(大正3年建設)と同時に申請し、大正7年(1918年)に第二期工事として建設された発電所です。発電機は横軸タイプが採用され、機械器具は第一発電所の外用品に対して国産品が使用されました。水車発電機が5台、当時は24,000キロワットの出力を有し、発生した電力を東京(田端)までの長距離送電を行い、京浜工業地帯発展の原動力になりました。現在も、当時のレンガ削りの建物などその姿を残しています。



### 十六橋水門

十六橋水門は、猪苗代湖から日橋川へ自然流していた水をせき止め、安積平野に水を流し、安積平野開拓のために建設された水門です。「十六橋(じゅうろくきょう)」の名の由来は、天明6年(1786)会津藩主松平容頌が十六怪聞の石造アーチ橋を架けたことによるとされています。オランダ人技師ファン・ドールン氏の指揮監督のもと、明治12年(1879年)に建設が始まりました。明治14年には初めて猪苗代湖の水が太平洋側に流れました。これにより安積の荒野が豊かな農地に姿容、今日の郡山市発展の基盤となりました。



### 全国そば博覧会

福島県は全国でも屈指のそば作付面積・生産量を誇り、その中心となっているのは会津地方です。会津の清冽な水、豊かな自然の中で育ったそばは多くの人に愛されています。今年「全国そば博覧会」が磐梯町において開催され、全国のそば名産地が集い、会津を始め、日本中のおいしいそばをお召し上がりいただけます。



## 全コース

### 会津ブランドものづくりフェア

会津地域のより幅広い「ものづくり」の魅力を、さらに会津地域内外にPRするとともに、ブランド化を目指し、地域の特色ある資源の魅力に磨きをかけ、未来へ継承し、ひいては地域産業の振興を目的に開催されております。



## オプションコース

### 布引山風力発電所

郡山市の会津布引高原に国内最大の出力を持つ「郡山布引高原風力発電所」が平成18年に完成いたしました。ドイツ製の風車33基で構成され、年間発電量は約1億2500万キロワットを見込んでいます。約3万5000世帯分の年間消費電力量に相当し、火力発電所などと比較して乗用車約6万6000台分の二酸化炭素年間排出量を削減できるといわれています。風車の直径は71メートル、地上から羽根の中心部までの高さは64メートルです。



## 会津若松へのアクセス

### ■新潟空港からのアクセス

#### 高速道路

北陸自動車道 空港IC⇒新潟中央JCT⇒磐越自動車道

#### JR新潟駅

空港⇒新潟駅 バス 約25分 タクシー 約20分

### ■仙台空港からのアクセス

#### 仙台空港アクセス鉄道

仙台空港⇒仙台駅

所要時間 約25分



### ■福島空港からのアクセス

#### 高速道路利用

福島空港⇒東北自動車道 須賀川IC⇒郡山JCT⇒会津若松IC

#### バス利用

福島空港⇒郡山駅 所要時間 約40分

\*福島空港 - 会津若松間のシャトルバスもごさいます(要予約)

### ■高速バスのご案内

- ・東京⇒会津若松 所要時間 約4時間30分
- ・いわき⇒会津若松 所要時間 約3時間
- ・郡山⇒会津若松 所要時間 約1時間20分
- ・仙台⇒会津若松 所要時間 約2時間30分
- ・新潟⇒会津若松 所要時間 約2時間

### ■東武・会津鉄道利用の所要時間

浅草  
新宿 → 会津若松

【東武・会津鉄道・JR乗継】 所要時間 約4時間

### ■主要なJR路線 所要時間

- ・東京⇒郡山【東北新幹線】 所要時間 約1時間20分
- ・仙台⇒郡山【東北新幹線】 所要時間 約50分
- ・郡山⇒会津若松【磐越西線】 所要時間 約1時間10分
- ・新潟⇒会津若松【磐越西線】 所要時間 約2時間30分
- ・いわき⇒郡山【磐越東線】 所要時間 約1時間30分

### ○会津若松ワシントンホテル(会場)付近図



主要機関連絡先		
観光案内	会津若松市観光課	TEL 0242-39-1251
	会津若松観光物産協会	TEL 0242-24-3000
	会津若松市観光公社	TEL 0242-27-4005
交通機関		
バス	会津バス若松営業所	TEL 0242-22-5555
	JR東日本会津若松駅	TEL 0242-22-0257
鉄道	会津鉄道	TEL 0242-28-5885
	東武鉄道	TEL 03-3621-5205
タクシー	会津交通	TEL 0242-22-6655
	会津タクシー	TEL 0242-38-1110
	白虎タクシー	TEL 0242-29-0101
	葵観光タクシー	TEL 0242-37-1533
	広田タクシー	TEL 0242-75-2488

(順不同)

本大会・交流会会場 **会津若松ワシントンホテル** 〒965-0022 会津若松市白虎町201 TEL 0242-22-6111

全国産業観光フォーラムin会津若松2007 事務局：会津若松商工会議所総務課 担当：結城・長谷川・栗城  
TEL 0242-27-1212 FAX 0242-27-1207 (URL) <http://www.aizu-cci.or.jp> (E-mail) [info@aizu-cci.or.jp](mailto:info@aizu-cci.or.jp)